

台風などの風水害が増える季節です

日づつくるの備え忘れずに

大正12年9月1日に発生した関東大震災の悲惨な状況を伝え、その教訓を生かすために、9月1日は「防災の日」に定められています。これからの季節は、台風や雨雲の影響で大雨が降りやすく、毎年全国各地で、豪雨と強風による被害が発生。これを最小限に抑えるためには、知識と事前の対策が必要です。風水害に対する備えを紹介します。問い合わせは生活課 890-6238へ。

古くから本市でも 水害の歴史が

本市は、「水と緑と詩のまち」と言われるように、市内には利根川や広瀬川、桃ノ木川、荒砥川、粕川など多くの川が流れ、自然の恵みをもたらしています。しかし、古くから水害も多く発生しています。特に昭和二十二年のカスリン台風では、市域の大きな面積が水没しました。さらに、翌年の昭和二十三年にアイオン台風、同二十四年のキティー台風と三年連続して、台風の被害を受けています。最近では、昭和五十六年の台風15号、同五十七年の台風10号、同五十八年の台風18号などが、大きな

1時間の雨量	雨の降り方
8～15mm	雨の音が聞こえる。
15～20mm	地面一面水たまり。雨音で話し声がよく聞こえない。
20～30mm	どしゃ降り。側溝がたちまちあふれる。大雨注意報。
30～50mm	バケツをひっくり返したよう。大雨警報。
50mm以上	滝のように降る。土石流が起りやすい。

風速	被害状況
10m/秒	傘がさせない。
15m/秒	看板やトタン板が飛び始める。
20m/秒	小枝が折れる。
25m/秒	瓦が飛び、街路樹が倒れる。
30m/秒	雨戸が外れ、家が倒れることもある。

予測できない 集中豪雨に注意

被害をもたらしました。昭和六十一年以降は、雷雨による集中豪雨から発生する浸水害が多く見られます。特に平成九年九月の集中豪雨では、一時間の降水量が百を超え、四百棟以上の建物などに被害が発生しました。昨年は、幸いにも本市は、台風の影響を受けませんでした。今年はずでに宮城、粕川地区で集中豪雨が発生していますので注意が必要です。

集中豪雨は、狭い地域に短時間で突発的に集中して降るため、予測が困難です。中小河川のは

	条件	伝達内容	伝達方法
避難準備勧告	災害発生のおそれがあり、事態の推移によっては、避難の必要が予想される。	勧告者、危険予想地域、避難準備勧告すべき理由、避難に際しての携帯品、避難方法。	自治会組織による伝達、広報車による伝達、防災行政無線、その他必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送を併用する。
避難勧告	当該地域、土地建物などに災害が発生する恐れがある。	勧告者、避難すべき理由、避難先、避難所に至る経路。	自治会組織による伝達、広報車による伝達、防災行政無線、その他必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送、口頭による伝達、サイレンを併用する。
避難指示	状況が悪化し、避難すべき時期が切迫した場合、または現在に災害が発生しその現場に残留者がいる。	指示者、避難すべき理由、避難先、避難所に至る経路。	

らんや土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地などでは、気象情報に十分注意して、表1・2、万全の防災対策を済ませましょう。